

バージョン化ファイルのバックグラウンド転送

説明

Perforce Helix Core 2019.1よりコミットエッジ構成(マルチサイト構成)において、バージョン化ファイル転送をバックグラウンドで行えるようになりました。

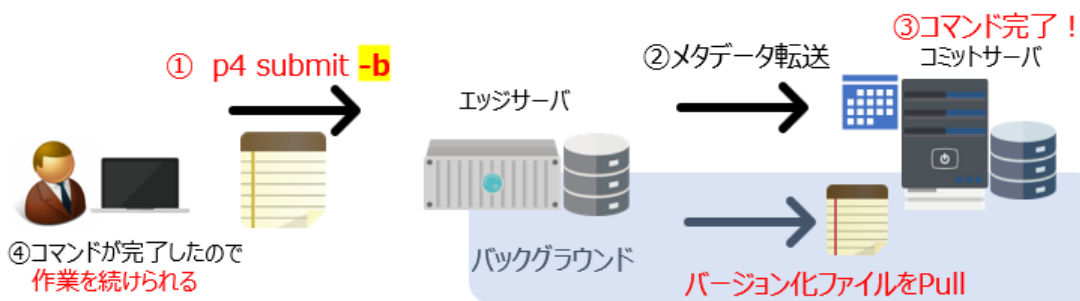
p4 submitコマンドに"-b"オプションを追加することで、バージョン化ファイル転送を待つことなく終了できるようになったため、転送が終わるまで待機していた時間を短縮することができます。

■ イメージ図

【旧バージョン】



【2019.1の場合】



参照ページ

- ・「Helix Coreサーバ管理者ガイド: マルチサイト展開」- エッジサーバでサブミットを行う場合のバックグラウンドアーカイブファイル転送機能
- ・「Helix Core P4コマンドリファレンス」- エッジサーバでサブミットを行う場合のバックグラウンドアーカイブファイル転送機能

設定手順

全てのサブミットを自動で"`p4 submit -b`"とする場合の設定手順は以下の通りです。

1. エッジサーバのサーバ仕様で、[ExternalAddress]フィールドにコミットサーバを設定します。

実行コマンド: コミットサーバで作業

```
p4 -p host:port -c edge-server server edge-serverID
```

追記

ExternalAddress: `edge-server_address:port` ● 1行追記

*edge-server_address:portには、コミットサーバがバージョン化ファイルを取得するエッジサーバを指定します。

2. コミットサーバを含む複製環境内のすべてのサーバ仕様に以下の構成可能変数を追記します。

実行コマンド

```
p4 -u super -p host:port server serverID
```

追記

DistributedConfig:

```
submit.allowbgtransfer=1  
submit.autobgtransfer=1 ● 2行追記
```

3. サーバを停止し、その後起動させます。



"p4 admin restart "は使用しないでください

実行コマンド

```
p4 admin stop
```



各OSのサービス起動方法でp4dを起動させます